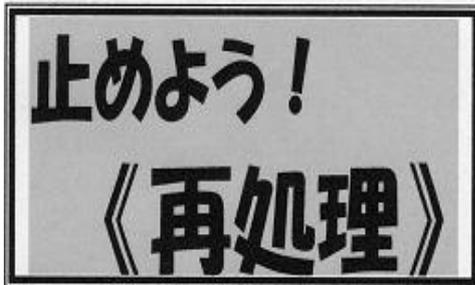


三陸の海を放射能から守る
岩手の会

ミニコミ通信 第21号

ホームページ(「通信」バックナンバー掲載中)
(岩手の環境 / RI廃棄物 / 再処理)
郵便振替 02240 - 5 - 102650



2006(平成18)年

6月13日

編集事務局 S.Oshida

電話・ファックス

019-623-1636

きれいな海を守り安全な海産物を届けよう



豊かな

三陸の海を守る会 総会開催

5月26日 宮古市磯鶏公民館

豊かな三陸の海を守る会の総会は、五月二十六日(金)宮古市磯鶏公民館に会員二十九人が出席し開催されました。他に委任状二十八人が届けられました。

田村剛一会長は、会費足から半年間を振り返り、放射能が大手を振って流されるといふ、どうしても信じられないことがなせ行われるのか?と疑問を語り、その原因の一つとして、海洋投棄に関する法制が極めて不備であることを指摘しました。そして、海を守るために、早急な「放射能海洋放出規制法制化」が必要であり、沿岸市町村自治体、県、国に対して、請願運動を力強く進めようと訴えました。

総会ではきれいな三陸の海を守りぬぎ、安全でおいしい海産物を全国に送り届けるために、岩手県による「環境モター」や、海洋監視活動強化、日本原燃への説明会要求などの運動を一層発展させることを確認しました。

三陸のワカメ海水の放射能測定依頼 菅野和夫事務局長 経過報告

十一月の設立総会以来、再処理アクティブ試験中止のために、三陸沿岸自治体への要請行動を精力的に行い、その結果、十市町村での請願採択が実現し、十五市町村長による「日本原燃宛説明会要請」へつながりました。

住民の学習会は、宮古学習会(約五〇人)、シートピアなあと学習会(約三〇人)、山田水口教授学習会(約一五〇人)、田老漁協学習会(約一〇〇人)と延べ約三三〇人が出席しました。

アクティブ試験中止を求めて青森県、六ヶ所村に outgoing 要請行動を行いました。岩手県にも国や日本原燃などに対して必要な処置を取るよう要請しました。この間、会員中心に署名やムキによる要請行動も行いました。

三月二十八日の日本原燃宮古説明会には会員十六人が入場し説明責任を果たすように強く要求しました。しかし、残念ながらアクティブ試験が強行され四月二十八日には約六

〇〇トンの放射性廃液が海に流されました。トリチウムが多く、年間予定の一億分の一の放射能量と発表されました。即刻中止を求め抗議文をおくりました。

監視活動として宮古周辺海岸の「空中放射線測定器」による測定を行いました。また京都大学原子炉実験所に依頼して、真崎海岸のワカメを検体として送り、測定して頂きました。結果は正常数値で「安全」の結果でした。さらに、原子力資料情報室に、同じく真崎海岸の海水を採取し送付、現在検査中です。

住民の力で、この安心、安全の三陸の海を絶対に守り抜きましょう。

海への放射能放出 法規制整備要求行動等 事業計画を決定

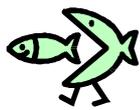
事業計画案は次のように決定されました。

- 1 岩手県に対して「環境モター」の設置要求活動を行います
- 2 海水、海産物の放射能調査分析を継続して行います。
- 3 日本原燃による岩

- 手県内説明会開催を要求します。
- 4 放射能を海に流さないよう「法規制」を市町村、県、国・国論願要請します。
 - 5 講演会・学習会を引き続き行います。
 - 6 会員相互の広報・連絡活動を行います。

消費者と手を繋ぎ、海を守りぬく
総会出席者の発言から

- ・東海村再処理工場はどつだつたのか実情を知りたい。
- ・第二再処理工場の計画もあると言いがとんでもないことだ。
- ・「国策」といつが、青森県ばかり潤いがあった、岩手はとばちちりを食っている。町内回覧板で、実態を知らせる方法を考えてはどつだつたか。
- ・岩手県がこのよつな環境を守る運動をしているならば岩手県産品を買います」と関東の消費者が、言ってくれた。



二月中のアクティブ開始は借金返済のためだった？

日本原燃(株)は三月二十八日に久慈市と宮古市で形ばかりの説明会を行い、反対の声を押し切つてわずか三日後の三十一日にアクティブ試験を開始しましたが、無理なスケジュールと急がなければならなかった理由が借金返済であることがわかってきました。

日本原燃の累積赤字は五七一億円(二〇〇四年度)に達しています(日本原燃HP上の損益計算書による)、それは一兆円以上ある長期借入金にかかる支払利息(二〇〇四年度は二二億円)とウラン濃縮や放射性廃棄物管理などすべての事業の遅れから来る収入不足が影響しているとみられます。

河北新報(四月十三日付)によると三月三十一日にアクティブ試験を開始することにより、電力会社が積み立てている「再処理積立金」から〇五年度分の二八〇〇億円(推定)が日本原燃に支払われることになったといっています。

二〇〇六年度もほぼ同額が支払われますが、三十一日にアクティブ試験を強行したことにより、わずか一日で二〇〇五年度一年分の金額が支払われ、赤字解消ができるというわけです。

無理なスケジュールを強行した背景にはこのよつな事情があり、説明会で三陸の漁業者の声を聞くことなどという気は、はじめからなかったといつことが明らかになりました。このよつに安全より経済性を優先させる日本原燃の企業体質は厳しく糾弾されるべきものであります。

(文純)

参考資料

六ヶ所再処理工場コストの変遷

1989年	事業認可	7600億円(建設費のみ)
1996年	大規模設計変更	1兆8800億円(同上)
1999年	見直し	2兆1400億円(同上)
2001年	追加	2兆2000億円(同上)
2003年1月	電気事業連合会試算発表	11兆円

(40年間100%フル稼働 無事故前提)
 建設費(含む増設分) 3兆3700億円
 運転保守費 6兆0800億円
 解体・廃棄物 1兆5500億円
 これらの費用は電気料金に上乘せされます。

資料「原子力資料情報室ホームページ」

六ヶ所村ラプソディー盛岡上映会 おでつてホールに約一六〇人



鎌仲ひとみ監督作品「六ヶ所村ラプソディー」の上映会が、六月一〇日(土)盛岡市プラザおでつて

ホールで開催されました。ちやくちやく馬つこの当日でしたが、一回目約九〇人、二回目約七十人が観賞しました。核燃の村「六ヶ所」について関心が高まりつあります。

今後の各地の上映会は次の通り。

- 八戸上映会 (鎌仲監督トーク)
- 六月二日(木)
- 八戸市公民館ホール
- 仙台上映会
- 六月二五日(日)
- 宮城県婦人会館
- 五階ホール

事故の回答を要求 日本原燃に抗議文

「岩手の会」は、四月十一日の事故の経緯や原因、放射能海洋放出の数値などについて日本原燃に公開質問状を出してありましたが、未だに回答がなく、その責任感の乏しい閉鎖的な態度に、六月九日抗議文を送り、記者会見を行いました。アクティブ試験開始後すでに七回も事故が発生しており、特に五月十七日の試薬漏れ事故については公表内容とかなり違つ内部告発文書が原子力資料情報室に届いており、事故の詳細を正しく公表するよつ日本原燃に要請しました。

陸前高田上映会

- (鎌仲監督トーク)
- 七月十五日(土)
- ふれあいセンター
- 多目的ホール
- 気仙沼本吉上映会
- 七月十六日(日)
- 気仙沼市内
- (上映場所未定)
- 北上上映会
- (鎌仲監督トーク)
- 七月三〇日(日)
- 北上市市民交流プラザ
- (予定)